

# 「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部  
創立10周年に寄せて

40

ラクダの背を緩やかにしたような、二つの頂をみせる五葉山の稜線。麓の集落を見守るようにゆったりと横たわっています。その山麓に源を発した鷹生川が岩や大きな石をくぐり、高低差を築しむかのように流れています。

ここ大船渡市日頃市町鷹生集落が、十人の子育てをしてきた祖父父母の、そして母のふるさとです。幼かったころ、母に連れられてこの鷹生によく来ました。

十分な食べもの無かった時代、毎日毎日、畑に出て暗くなるまで一生懸命働き通した祖父・興五郎、祖母・ソデの姿を忘れることはありません。

つつがない日々を暮らしを引裂く大きな「事件」に直面したことが、幼かった時の私の記憶に今なお鮮明です。昭和十二年七月、蘆溝橋事件(日中両軍の武力衝突)を機に始まった日中戦争で、休石家の長男として一家の将来を期待され、祖母が力にしてきた猛叔父が昭和十六年、帰らぬ人となってしまったのです。

う。

祖父も叔父の死以降だったと思いますが、母屋から外の圃に行くとき五葉山に向かって必ず「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と唱えながら歩いていました。

祖母にとっては初めての子であり、どんなにか愛情を注ぎ、大事に育てたような気がします。

## 今なお力をくれる祖母

大船渡市猪川町 熊谷 ケエ子

あゝあの時の祖父父母の落胆、失望、憔悴の姿が脳裏に浮かんできます。日頃市村の村葬の行列が集落に入ってきた時でした。気丈で決して弱音を吐いたことのない祖母が腰を抜かし、歩けなくなったのです。どれだけの悲しみであったでしょう。

てきたか知れませんが、戦地へ送り出したことへの自分自身への責め、もう帰らぬ喪失感が「南無阿弥陀仏」と唱えさせたのです。

今、私は祖父が五葉山に抱かれてきたことに、思いをめぐらしています。自然の営みの中に身も心も置いて、自然の中に自分自身を投影してきた姿です。

山々を渡る風、躍動感

す。

あふれる新緑の息吹、寂寥(せきぼう)とした紅葉に、祖父自身が喜びも悲しみも、苦しみもすべてを語りかけ、山から答えて聞いてきたように思えるのです。

気持ちや和らげ、心を落ち着かせ、素直に、正直にさせる力がそこにあるような気がします。

募したのが「しゃくなげの湯」(五葉温泉)でした。いま、多くの人たちに親しまれている五葉温泉の名付け親とさせていただけました。そして、夫が力を貸してくれたのかもしれない。

五葉山霊高くとも 海洋の波は荒くとも 健児は千万百理の 火花を散らすときは今

地域の期待を担いタス 手をつなぐ、叔父たちを 沿道から応援した小学生のころを思い出します。

また、五葉山にあるシ

す。

「人のために尽くす中で、人としての生きる力を養っていきなさい」という祖母の教えが私の人生訓です。その祖母も鷹生の自宅で眠るように九十七年の人生を全うしました。

五葉山と向き合い、抱かれることによって養われていく情操。この感性が他者の痛み、苦しみ、悲しみに思いをいたす温かみのある人間を育む力であったように思えます。

多くの人に支えられ、助けられこれまで注いできたさまざまな活動の源を顧みるとき、母なる五葉山といつも気丈で優しい祖母が私の中に重なっているのです。

【執筆者プロフィール】大船渡市猪川町在住。七十六歳。市内の保育園、小学校、中学校に学校調理員として三十五年奉職。猪川町交通安全母の会会長、同市運動普及推進団体「歩々笑」会長、気仙健康長寿の里協働員、五葉温泉運営委員。「しゃくなげの湯」(五葉温泉)の名付け親。



五葉山を象徴するシャクナゲ。思い出の中に今も脈々と息づいている

# ミレーシー エッセイ